

身の回りではなく神の周りへ マルコ1:29~39 / 李正雨師

皆様もご存知だと思いますが、私は、日本ルーテル教団の牧師ではありません。韓国ルーテル教団の牧師として、日本に派遣された宣教師です。このような私が日本ルーテル教会で牧会することができるようになったのは、韓国ルーテル教会と日本ルーテル教会が同じ系列の教会、同じ教団から宣教されたからです。日本と韓国のルーテル教会は、アメリカのミズーリ・シノッドという教団から宣教されました。日本は1948年、韓国は1953年からミズーリ・シノッドの宣教が始まりました。宣教の根が同じ教団だったので、日本と韓国のルーテル教会は、過去にも宣教協力を結び、協力が続けられた中で私が日本に来ることになったのです。

では、皆様に一つの質問をしたいと思います。なぜミズーリ・シノッド、日本と韓国に宣教をしたのでしょうか。宣教には経済的にも、人件的にも、莫大な費用がかかります。さらに危険が潜むこともあります。しかし、ミズーリ・シノッドだけでなく、いろいろな教団と教会は、日本と韓国、そして東アジアに宣教をしました。なぜ教会はこのようなことを行い、今も行っているのでしょうか。宣教を通して何か得になることがあるのでしょうか。宣教において得と失というものはないと思います。それにもかかわらず宣教をするのは、宣教が神様の御心であり、イエス様がこの世で行われたことだったからです。

今日の福音書は、イエス様が起こされた奇跡について語っています。そして、同時に宣教の方向性についても示しています。今日の福音書29節からは、熱が出て寝ていたシモン(ペテロ)のしゅうとめを癒されたことが書かれています。私はこの言葉が、宣教にあたった人々とその家族の心配を解消させ、慰める言葉だと思います。会堂から出たイエス様はシモンの家に行かれました。その時、シモンのしゅうとめは熱が出て横になっていたので、人々は彼女のことをイエス様に話します。このことを聞かれたイエス様はシモンのしゅうとめのそばに来られ、手を取って起こされました。その瞬間、熱は去り、彼女はイエス様と一同をもてなしました。

人々を癒された話は、福音書にたくさん書かれています。弟子たちの家族や親戚を癒された話は、この箇所が唯一です。それで、なぜこの言葉が記録されたのかを考えてみました。当時のシモンは、イエス様の弟子になったばかりでした。さらに、シモンは結婚していた人でした。結婚して家庭を築いた者として、自分の仕事を捨ててイエス様に従うということは、誰が見ても不安なことです。シモン自身は、イエス様の弟子になってよかったかもしれませんが、家族の心配はどんどん深まっていったと思います。シモンは、イエス様はメシアだと思ったかもしれませんが、シモンの家族は、そう思わなかったかもしれないからです。イエス様についての確信もなく、将来についての不安もいっぱいだったと思います。その時、イエス様はシモンの家に行かれ、熱によって横になっていたシモンのしゅうとめを癒されました。

この出来事は宣教にあたった人にも、その家族にもイエス様についての確信と平安を与えることだったと思います。目の前でメシアだけが行くことができる奇跡が起きたからです。また、この出来事を通して、私たちは弟子たちの生活を見守ってくださるイエス様についても知ることができます。イエス様は弟子を招くだけでなく、招きによって起きる様々なことに恵みを与えてくださいます。弟子たちがご自分の道によく従うことができるように、家族みんなが平安を得ることができるように導いてくださいます。この癒しの出来事は、シモンと彼の家族に確信を与えたと思います。誰よりもシモンのしゅうとめはイエス様について確信したでしょう。だから31節には「彼女が一同をもてなした」と書かれています。

そしてこのことは、大勢の人にイエス様のことを知らせるきっかけになります。32～33節にはこう書いてあります。「夕方になって日が沈むと、人々は、病人や悪魔に取りつかれた者を皆、イエスのもつに連れて来た。町中の人々が、戸口に集まった。」シモンと彼の家族を通してイエス様が知らされたのです。そして、これはその町に救いを引き起こしました。イエス様が自分のところに来た人々の病気をいやし、悪霊を追い払われたからです。救いは、シモンの家族だけに臨まれたわけではありませんでした。シモンの家族を通して、町中に臨むことになったのです。イエス様を知らせるといふこと、福音を伝えるといふことは、こういうことだと思ひます。皆に救いが臨まれること、皆に平安が伝わることです。単に教会の勢力を拡張することではありません。イエス様についての信仰を強要することでもありません。皆に神様の恵みが与えられるように、皆が平安になりますように、福音を伝えるのです。それでイエス様は、弟子たちを招き、弟子たちを通してその町に救いを与えられたのです。自分だけではなく、皆のために宣教するのです。

これは、今日の福音書35節以下の言葉でもよく現れています。大勢の人々を癒されたイエス様は、朝早くまだ暗いうちに人里離れた所に行かれ、祈られます。弟子たちはイエス様の後を追い、イエス様にこう言ひます。「みんなが捜しています(37節)。」人々がイエス様を捜した理由については、書いてありませんので、よく分かりません。もしイエス様が彼らのところに行かれたなら、イエス様と弟子たちは、その町でメシアとして認められ、安らかに過ごすことができたでしょう。しかしイエス様は、その町に戻りませんでした。イエス様は弟子たちにこう言われます。38節です。「イエスは言われた。『近くのほかの町や村へ行こう。そこでも、わたしは宣教する。そのためにわたしは出て来たのである。』」

宣教と福音は、自分だけのためのものではありません。自分だけの救いのため、平安のために持っているものではありません。皆のためのものなので、他の人にも伝わらなければならないのです。まだイエス様の救いと平安を知らない人々のために知らせなければならないのです。それでイエス様は人里離れた所に行かれて祈られ、他の町に行かれました。他の人々の平安と救いのために、弟子たちと共に他の場所に行かれたのです。そしてこれは、イエス様が祈りを通してお分かりになった神様の御心だったと思ひます。神様の恵みは、一部の人々だけに与えられるものではありません。皆のためのものであること、それでイエス様の弟子たちは、この恵みを伝えなければならないことを、私たちは忘れてはいけません。

今日の午後からは、教会の総会があります。教会総会で、私たちは1年を顧みて反省し、新しい計画を立てるのです。私たちの反省と計画の中で、私たちが必ず確かめておくべきのは、教会の行事だけではなく、私たちの隣人と宣教のことだと思ひます。私たちの活動は、隣人に向かって開いているか。宣教的な教会になるために努力しているか。これが私たちの反省と計画の中心になるようにと願ひます。皆様を通して、神様の救いと恵みが皆様の家庭と町に臨みますように。飯能ルーテル教会が宣教する教会になりますように、主の御名によって祈ります。アーメン